

令和4年度第1回 横浜市自転車等施策 検討協議会



令和4年11月9日



議事 1 各施策の実施状況について

議事 2 指標について（8指標）

議事 3 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験
に係る事業評価部会の設置について



横浜市自転車活用推進計画

【2019年度～2028年度】



1

各施策の実施状況 について

■方針

■具体の取組

方針 1

**交通ルールを
学べる環境を
つくる**

(1) 切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

(2) 教育・啓発・指導ができる体制づくり

方針 2

**安全・安心に
自転車を利用
できる環境を
つくる**

(1) 自転車とクルマが互いに配慮できる意識啓発

(2) 自転車保険の加入促進

(3) 安全に乗るための点検・整備方法の周知啓発

切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

市の取組

① 世代に応じた交通安全教育

交通安全教室の実施（令和4年9月末現在）

- ・ 幼児交通安全教室
（120回、市内幼稚園・保育所等の園児向け）
自転車利用時のヘルメット着用等
- ・ 幼児保護者向け教室
（1回、市内幼稚園・保育所等の園児保護者向け）
幼児同乗自転車の注意点等
- ・ スケアード・ストレイト式教室（12区で実施予定、市内中学校等）
スタントマンによる自転車事故再現等



切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

- ・はまっ子交通あんぜん教室
(217回、参加数52,344名)

主に小学校3年生～6年生の児童を対象として、自転車の安全な乗り方など基本的な交通安全教育を体験型授業形式で実施。

警察署、交通安全協会が連携し、小学生に直接指導を行っています。



- ・中学生・高校生向け自転車交通安全教室
(14回、参加数3,494名)

自転車での行動範囲が広くなり始める中学校から高校までの生徒を対象として、自転車の交通ルール・マナーを学ぶ交通安全教育を座学講義形式で実施。

指導内容

- ・自転車の通行場所
- ・年齢によって適用される自転車ルール
- ・自転車損害賠償等の加入義務と加入の必要性
- …など

引き続き、学校の先生とやりとりを重ねながら実施しやすい方法を考え、より効果的な交通安全教育につなげていきます。

市の取組

② 自転車交通安全啓発ツールの作成・活用

(令和4年度配布予定)

- ・「みんなのサイクルルールブックよこはま」
(本編差し替え用：約800部・コンパクト版：約10,000部)
- ・「自転車ルールのきほん」日本語版・英語版・中国語版・ハングル版・やさしい日本語版
(各種合計：約35,000部)
- ・各世代向け啓発チラシ
(各種合計：約203,000部)
→交通安全教室の教材として活用するほか、区役所等で配布

市内中学校・
高校新入生へ
の配布など

幼稚園・保
育所等での
配布など



ルールブック
コンパクト版



自転車ルールの
きほん



中学生向けチラシ



高校生向けチラシ



乳幼児保護者向けチラシ

切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

市の取組

③ 様々な機会を活用した交通安全啓発

動画やSNSを活用した情報発信

- ・ 自転車保険加入促進動画「あせるくんの恐怖の体験」
(令和3年6月公開)
- ・ 子乗せ自転車啓発動画「自転車に子どもを乗せる
すべての保護者の皆さんへ」
(令和3年12月公開)
- ・ 幼児向け交通安全教育動画「ヘルメットをかぶろう!」
(令和3年12月公開)
- ・ 各季交通安全運動に合わせて啓発動画をTwitterで配信
(自転車関連ツイート発信数：41件／令和4年10月19日現在)



自転車保険加入促進動画



幼児向け交通安全教育動画



子乗せ自転車啓発動画



Twitterを活用した発信

自転車とクルマが互いに配慮できる意識啓発

市の取組

「思いやり SHARE THE ROAD 運動」の推進

- 民間企業の協力による啓発
 - ・ トヨタモビリティ神奈川中店において令和3年度に作成した運動の説明動画を放映（令和4年5月）
 - ・ 神奈川トヨタ自動車（株）御協力のもとFMヨコハマ【Sunday Good Vibes!!】内トヨタモビリティ神奈川presents KANAGAWA SUNDAY TRIPに職員が出演しラジオ広報を実施（令和4年5月）
- 他局と連携した啓発
 - 環境創造局環境エネルギー課と連携し里山ガーデン内のEV（電気自動車）啓発ブースにて運動の啓発グッズを配布（令和4年5月）



▼番組ブログ

<https://www.fmyokohama.jp/kanagawasundaytrip/2022/05/post-91.html>



自転車保険の加入促進

自転車保険への加入状況調査

令和3年度の調査結果を踏まえた令和4年度の啓発方針

令和3年度の調査結果

■ 自転車保険への加入理由

- ・高額賠償のリスクを避けたいから
- ・県条例で義務となっているから
- ・事故を起こしてしまったから

■ 主な情報取得手段

- ・10～20歳代：SNS（Twitter、LINE）
インターネット広告など
- ・30～50歳代：インターネット広告など
- ・60歳代以上：新聞、広報紙など
- ・全世代：テレビ、ラジオなど

令和4年度の啓発方針

■ 加入動機につながる項目を強調

- ・高額賠償のリスク
- ・県条例で義務となっていること
- ・誰もが事故を起こす可能性

■ 世代別に応じた効果的な媒体を活用

- ・SNSによる発信（Twitter、LINE）
- ・インターネット広告
- ・広報紙（広報よこはま）
- ・テレビ広報（市広報枠、データ放送）
- ・ラジオ広報（市広報枠、民間） …など

令和4年度から
新たに実施/実施予定

自転車保険の加入促進

市の取組 各世代に対する広報の実施と、保険加入状況調査の実施

① 広報紙を通じた啓発

- ・ 広報よこはま記事掲載（5月号）

主に
高齢世代
向け

② テレビ・ラジオ番組、SNSなどを通じた啓発

- ・ テレビ広報（5月・政策局広報課広報枠）
テレビ神奈川「ハマナビ」お知らせコーナー
テレビ神奈川 データ放送
- ・ ラジオ広報（5月・政策局広報課広報枠）
FMヨコハマ【YOKOHAMA My Choice!】
- ・ ラジオ広報（5月・民間との連携）
FMヨコハマ【Sunday Good Vibes!!】内
トヨタモビリティ神奈川presents
KANAGAWA SUNDAY TRIP
- ・ Twitter（随時発信、5回／9月末時点）
- ・ 横浜市LINE公式アカウント（5月）

全世代
向け

全世代
向け

主に
若年世代
向け

④ キャンペーン等での啓発

- ・ 各交通安全運動、強化月間に合わせた啓発活動

全世代
向け

⑤ 日々の交通安全教室を通じた啓発

- ・ 幼児向け教室、児童向け教室、中高生向け教室、幼児保護者向け教室など

子ども・
保護者向け

⑥ 自転車保険への加入状況調査

- ・ 次年度の啓発に向けたアンケート実施

★その他

- ・ 転入者向け区役所窓口配布（13区で実施）
- ・ 自転車保険連携事業者と協力した取組（日本郵便株式会社との連携開始）
- ・ インターネット広告（予定）
- ・ 駅貼りポスター広告（予定）

市の取組 各世代に対する広報の実施と、保険加入状況調査の実施

① 広報紙を通じた啓発
・ 広報よこはま記事掲載（5月号）



5月「自転車月間」
入っていますか
自転車保険

県の条例で自転車保険への加入が義務付けられています。自転車に乗る人は必ず保険に入り、交通ルールを守りましょう。
※ウェブページの「チェックシート」でご自身の加入状況を確認してください。

道路局交通安全・自転車政策課 ☎671-2323 ☎663-6868

横浜市 自転車保険 検索

自転車保険の加入促進

連携事業者と協力した啓発活動

自転車保険の加入促進のための連携事業者として、新たに日本郵便株式会社が加わり、市内郵便局にて保険の加入促進や自転車の交通ルールの啓発などの協力をいただけることとなりました。

令和4年9月 提案書受理

令和4年10月 本市ウェブサイト内「自転車保険一覧」への掲載開始



日本郵便側のメリット：
本市ウェブサイト内「自転車保険一覧」への保険情報の掲載

本市側のメリット：
郵便局内への自転車保険の啓発ポスターの掲示や窓口における自転車のルールに関する啓発物配布等（調整中）

自転車保険の加入促進

令和4年度 加入状況調査 実施中

調査対象 無作為抽出 市内在住6歳以上 5,000人

調査期間 令和4年10月14日～11月16日

調査方法 A3両面 15問の調査票を郵送
回答は郵送またはインターネット回答

調査内容 自転車利用の有無、自転車保険加入有無、加入した(しない)理由、
自転車のルールについて知っていること、実際に行っていること 等

工夫
した点

- ・ 市民局広聴相談課「ヨコハマeアンケート」を活用したアンケートを
並行して実施（令和4年11月下旬～12月上旬予定）
- ・ 設問に高額賠償事例などの説明を追加
- ・ 調査票に「加入状況チェックシート」を同封

集計等事務の
効率化、回答がしや
すくなるよう工夫

自己所有の自転車
利用者に絞った設問に
することで、より正確な
保険加入率を把握

次年度の自転車保険加入促進啓発・自転車活用施策に反映



■方針

■具体の取組

方針
1

地域の自転車
ネットワークを
つくる

(1) 重点エリアでの自転車通行空間の整備推進

(2) 都心臨海部における自転車利用環境づくりの推進

方針
2

地域をつなぐ
広域ネットワーク
をつくる

広域的な自転車ネットワークの形成

方針
3

安全で快適な
自転車通行環境を
つくる

自転車通行環境の快適性向上

自転車通行空間の整備状況

- 令和4年度は下記工事及び委託の実施を予定

工事

路線名	整備箇所	整備形態	延べ延長
市道矢部第521号線	戸塚駅周辺 (重点エリア)	矢羽根型路面表示	約 1,000m
主要地方道環状4号線	泉区(上飯田地区)	自転車専用通行帯	約 500m
山下本牧磯子線	中区(本牧地区)	矢羽根型路面表示	約 500m
		計	約 2,000m

委託

金沢文庫駅周辺地区 設計業務委託
 都心臨海部 設計業務委託
 市道中山北山田線 測量設計委託

重点エリアでの自転車通行空間の整備推進

■ 戸塚駅周辺 自転車通行空間整備

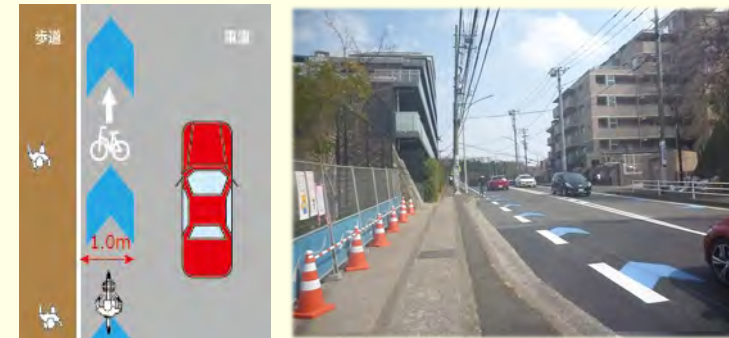
令和3年度には、A路線（一部）を整備。

今年度は、D路線の整備を予定。



R3整備箇所（A路線）

■ 車道混在(矢羽根型路面表示)のイメージ



事例：戸塚駅周辺（C路線）

重点エリアでの自転車通行空間の整備推進

■金沢文庫駅 自転車通行空間整備実行計画について

「金沢文庫駅 自転車通行空間整備実行計画」に基づき
今年度は、具体的な設計を実施、R5年度から
工事着手を予定。



整備対象路線（整備形態）

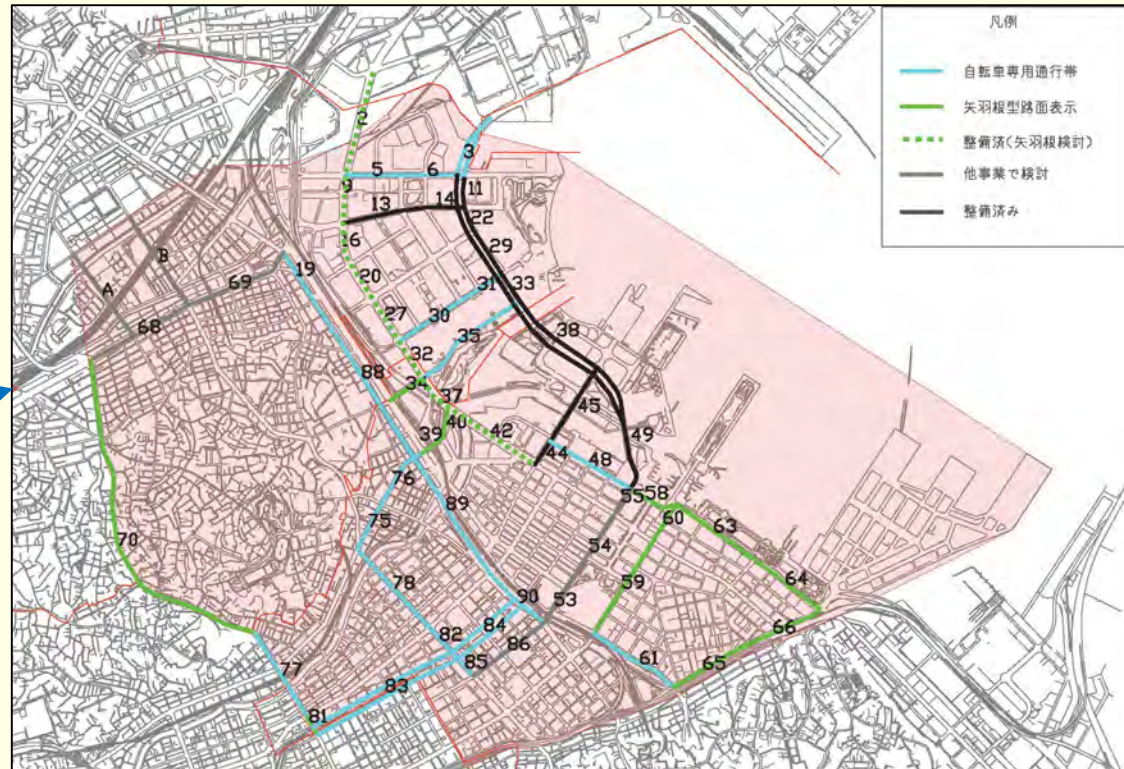
※関係機関との協議により整備形態を変更する場合があります。

重点エリアでの自転車通行空間の整備推進

■ 都心臨海部 自転車通行空間整備実行計画について

「都心臨海部 自転車通行空間整備実行計画」に基づき

今年度は、具体的な設計を実施、R5年度から工事着手を予定。



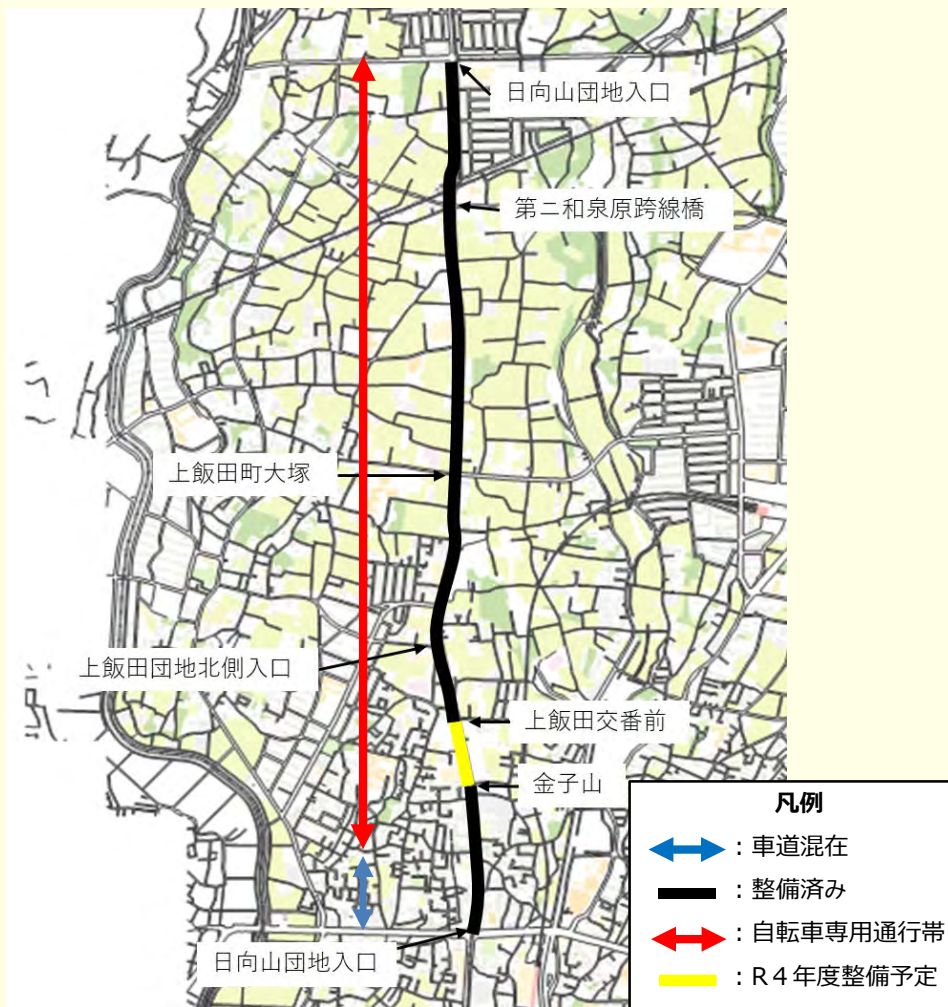
整備対象路線（整備形態）

※関係機関との協議により整備形態を変更する場合があります。

自転車ネットワークでの自転車通行空間の整備推進

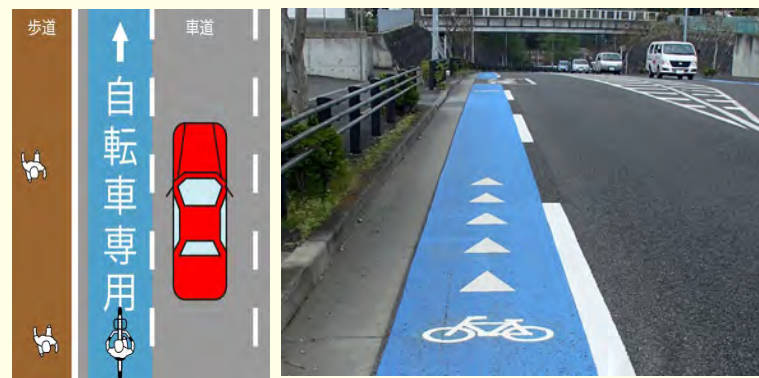
■(主)環状4号線(泉区上飯田地区) 自転車通行空間整備

令和4年度は、「上飯田交番前」から「金子山」交差点間の整備を予定。



R3整備箇所(上飯田交番前交差点付近)

■ 自転車専用通行帯のイメージ



自転車ネットワークでの自転車通行空間の整備推進

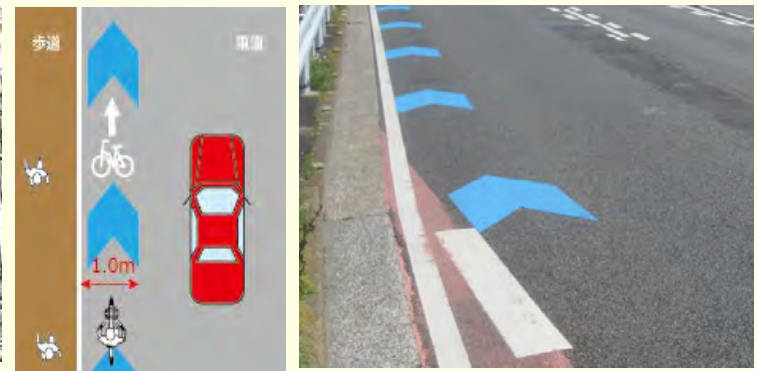
■ 山下本牧磯子線 自転車通行空間整備

令和4年度は、「大鳥中学入口」から「山手警察署前」
交差点間の整備を予定。



R2整備箇所(新本牧公園前交差点付近)

■ 車道混在(矢羽根型路面表示)のイメージ



事例：間門バス停付近

■方針

■具体の取組

方針 1

目的に応じた
駐輪場の「量」
を確保する

(1) 買い物等の集客施設での利用に応じた駐輪場の確保

(2) 鉄道利用等に対応した駐輪場の拡充

方針 2

サービスの
「質」を高める

(1) 市営自転車駐車場のサービス向上

(2) 持続可能な市営駐輪事業のしくみ構築

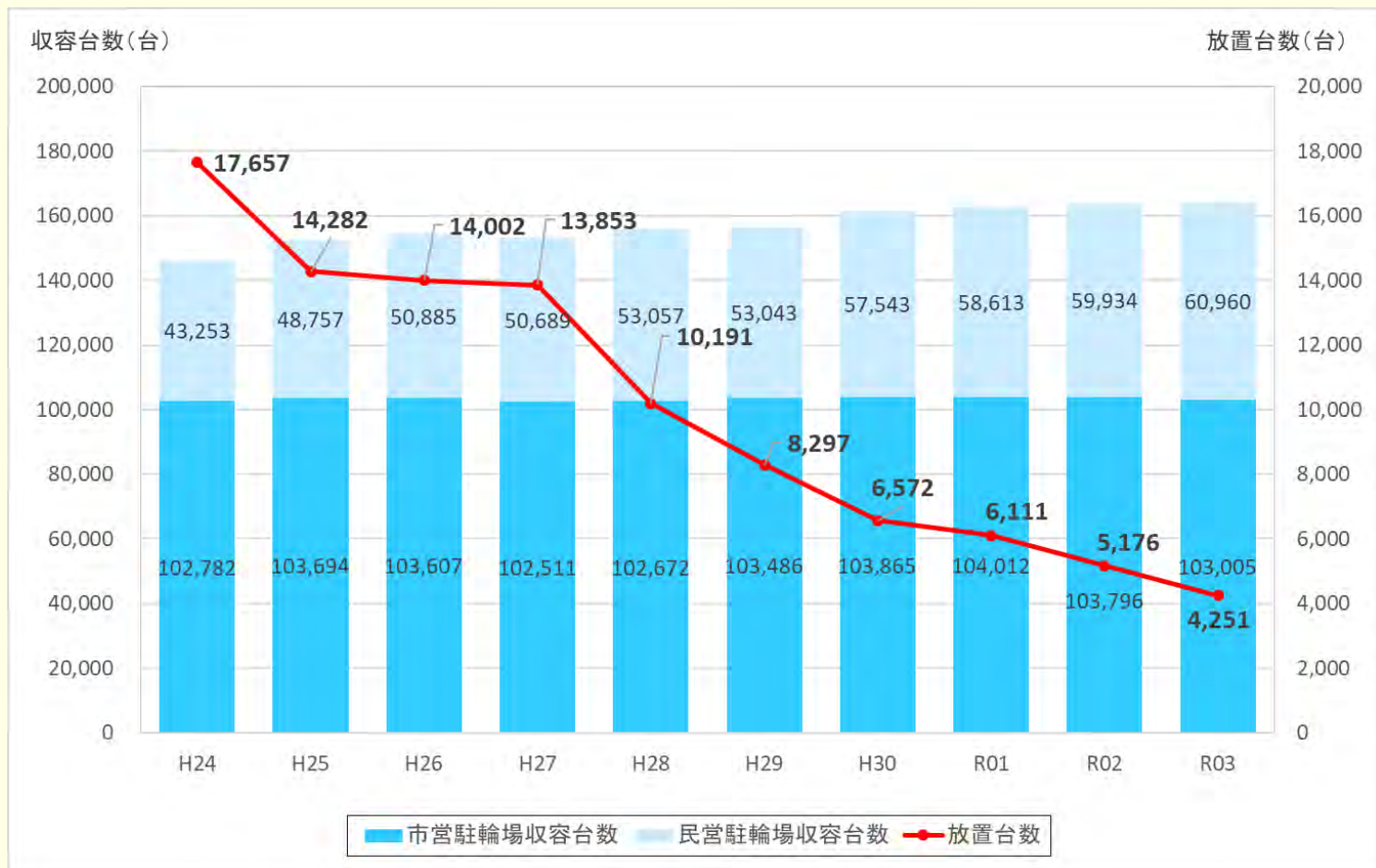
方針 3

まちに適した
駐輪対策を進める

地域、民間、行政の連携による駐輪対策の実施

放置自転車台数の推移

- 駐輪場の収容台数は約163,000台程度で推移
- 放置自転車台数はR3年度も引き続き減少しており、前年度と比較して約1,000台減少



※市営駐輪場は無料駐輪場含む

駐輪場の附置義務制度の運用状況

- 駐輪場の附置を義務付ける条例の義務規定を適用した運用を令和元年度から開始
- 該当する施設の新築・増築の機会を捉えて、附置義務による駐輪場の整備を促進

駐輪場附置義務条例 適合確認件数等（令和3年度）

	件数	附置台数	設置台数
集客施設	30 件	1,334 台	1,612 台
共同住宅等	347 件	8,534 台	10,991 台
複合施設※	6 件	663 台	1,013 台
合計	383 件	10,531 台	13,616 台

指標の1つとして、目標を設定

※ 1つの施設内に集客施設と共同住宅等が両方含まれるもの

駅前再開発等の機会を捉えた駐輪場整備

- 泉区弥生台駅北口自転車駐車場における、公共的自転車駐車場の再整備等を条件とした定期借地権設定契約での土地貸付の事業者公募について、相鉄不動産株式会社と契約（令和4年3月）
- 令和4年10月から工事期間中の仮設民営自転車駐車場の運営を開始
- 令和5年1月に民設民営自転車駐車場としてリニューアルオープン予定

事業者	相鉄不動産株式会社
提案内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的自転車駐車場（自転車：130台、バイク130台、シェアサイクル5台） ・地上6階の共同住宅（賃貸：52戸） ・地域貢献施設（子育て支援施設、多世代交流施設又は医療施設、健康維持等の商業施設のいずれかで面積は110㎡）
契約形態	一般定期借地（50年）
貸付価格（月額）	630,126円/月
今後の流れ	<p>令和5年1月自転車駐車場リニューアルオープン（予定）</p> <p>令和6年2月建物のしゅん工（予定）</p>



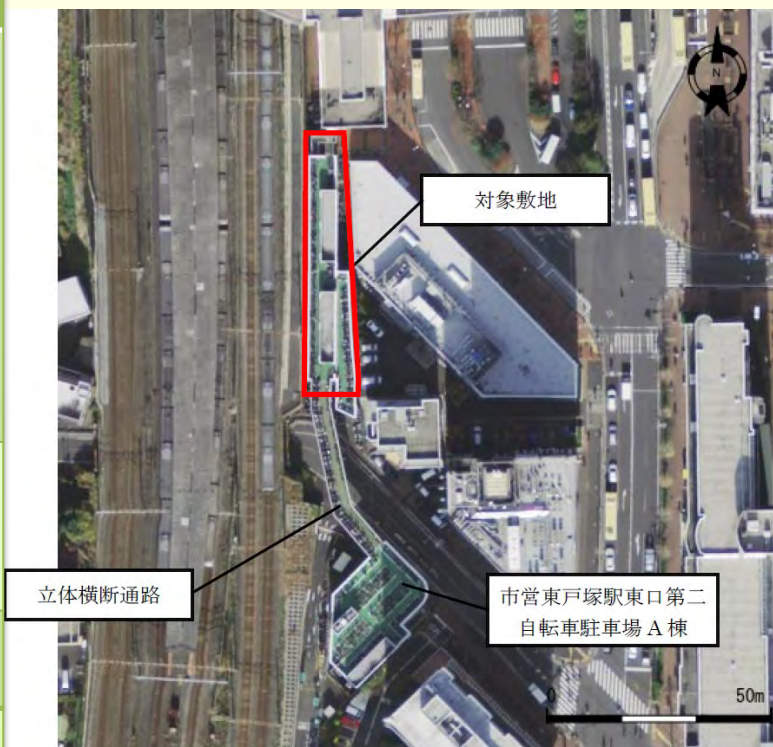
※ イメージパースは、応募書類から転載したものであり、応募書類の著作権は、応募者に帰属します。

東戸塚駅東口第二自転車駐車場の再整備の検討

- 東戸塚駅東口第二自転車駐車場B棟は、施設の老朽化に伴い、令和3年8月に閉鎖しており、今後の建替え再整備に係る検討として、民間事業者等の皆様との対話「サウンディング型市場調査」を令和4年7月末に実施し、利活用のアイデアと事業化に際しての課題などを伺いました。

サウンディング型市場調査実施内容

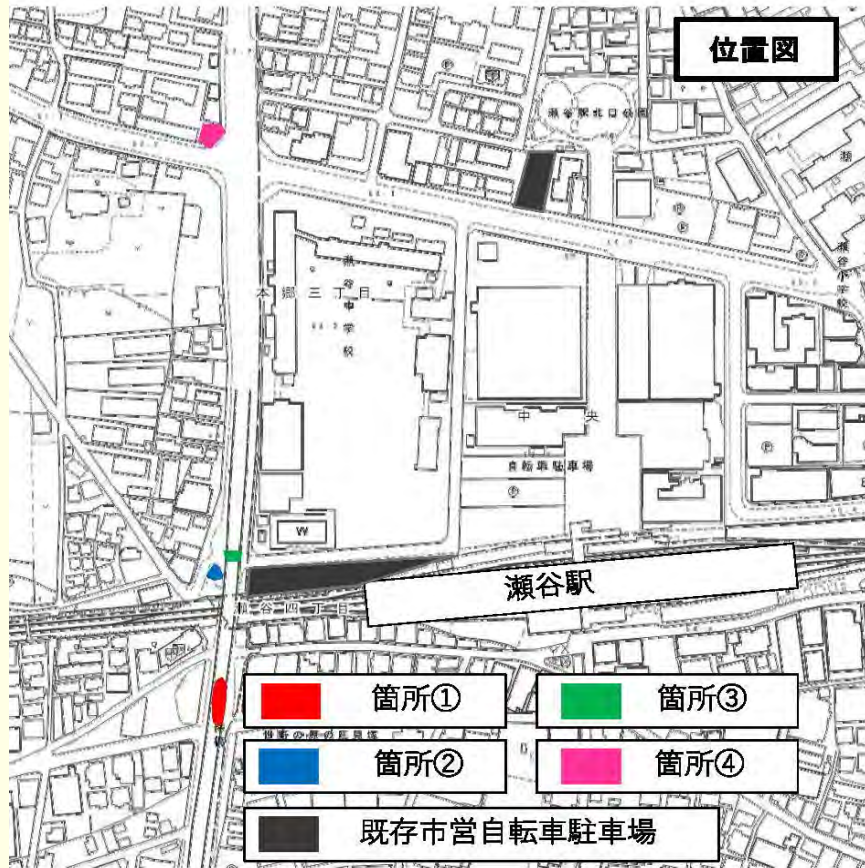
対話時の 主な条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民設民営方式での公共用自転車駐車場 自転車：200台以上 バイク（125cc以下）100台以上 ・ 立体横断通路動線の確保 （市営東戸塚駅東口第二自転車駐車場A棟から東戸塚駅まで） ・ 地域防災に寄与する施設 ・ 地球温暖化対策に寄与する施設
既存施設の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地面積：約600㎡ ・ 鉄骨造3階建（杭基礎） ・ 床面積955.26㎡
対話期間	令和4年7月25日～8月8日
今後の流れ	対話結果を踏まえ、今後、条件を具体化し追加資料を整え、令和4年度内に2回目の対話を実施する予定



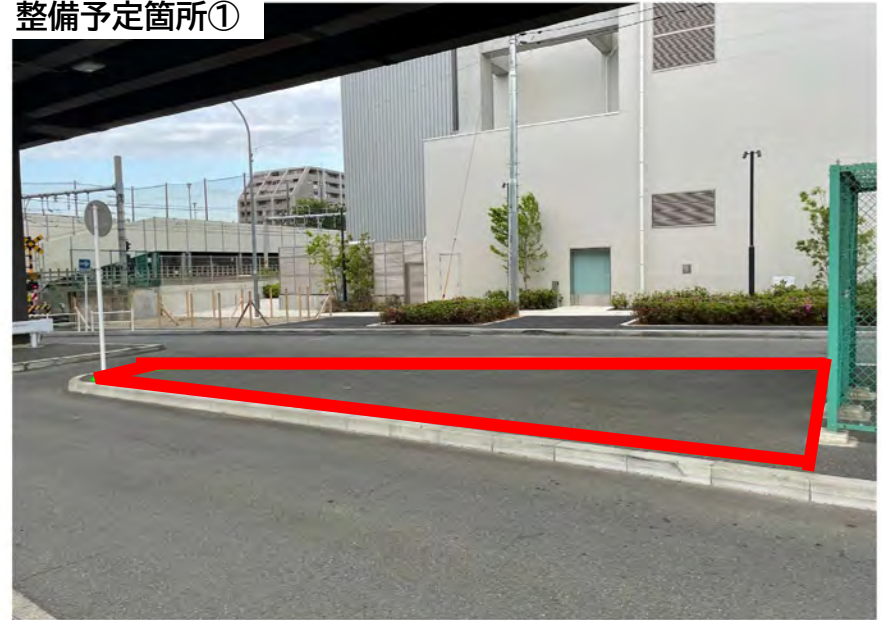
※図中赤線は正確な敷地境界位置を示すものではありません。

駐輪需要に応じた駐輪場整備

- 瀬谷駅周辺において、駐輪環境の更なる充実と、通勤・通学等のための公共用自転車駐車場の安定的確保に向けて、道路空間の未利用地を活用し、市営自転車駐車場を整備中



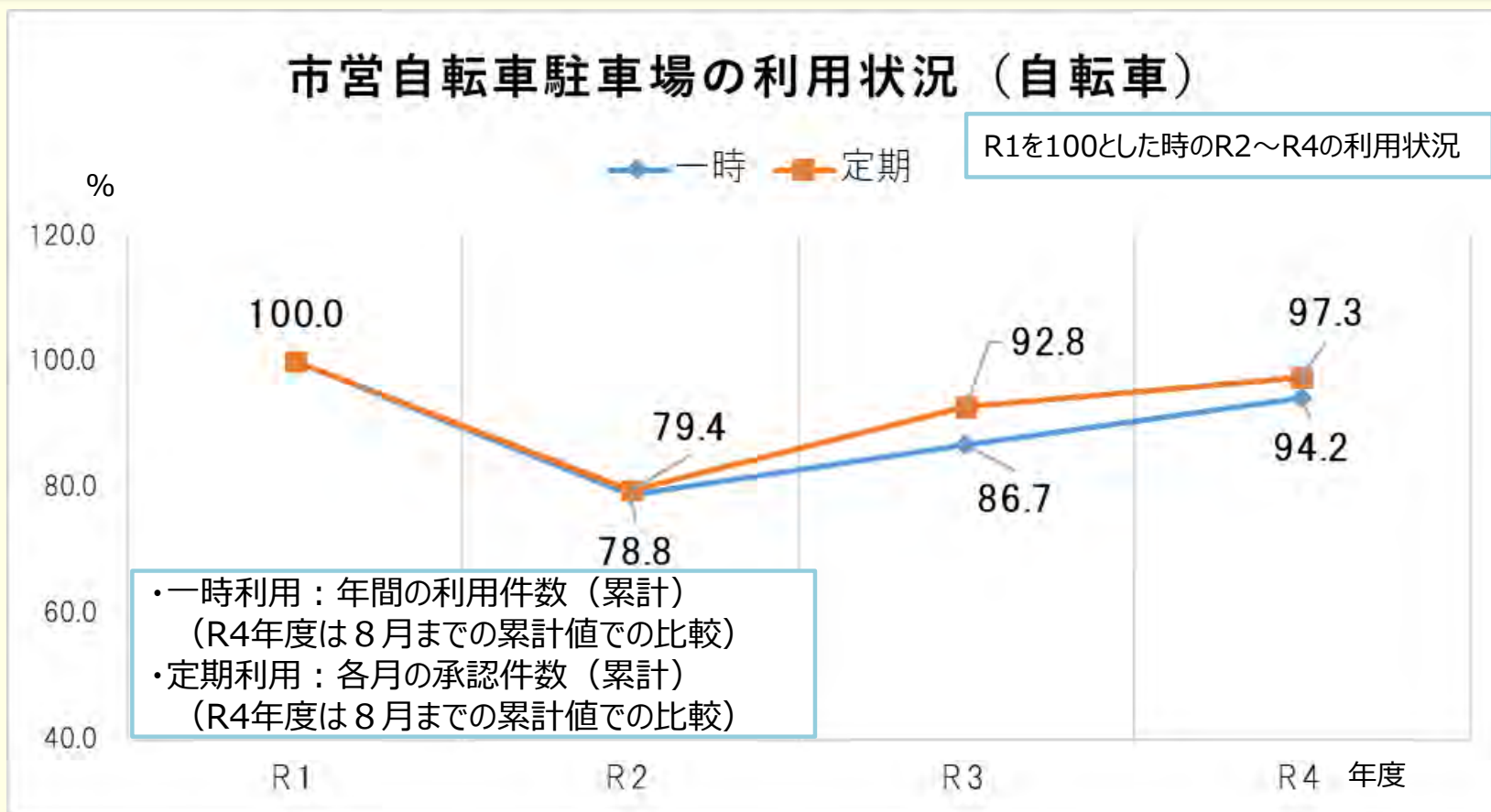
整備予定箇所①



令和5年2月に供用開始予定
(自転車：183台を増設)

【参考】市営自転車駐車場の利用状況

- 市営自転車駐車場は、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者数が減少
- R3年度は、一時利用・定期利用ともに前年（R2）と比較し増加傾向にあった
- R4年度についても、一時利用・定期利用ともに前年（R3）と比較し増加傾向にある



■方針

■具体の取組

方針 1

健康的な
「ライフスタイル」
にいかす

(1) 自転車を活かした健康づくりの支援

(2) サイクルスポーツへの興味を高める取組推進

方針 2

横浜らしい
「まちづくり」
にいかす

(1) 観光や賑わいのあるまちづくりでの自転車活用の推進

(2) まちづくりと連携した自転車活用の推進

横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

- OpenStreet株式会社（他連携事業者4社）及び株式会社ドコモ・バイクシェアと令和4年6月10日に協定を締結し、令和6年度末までの社会実験を実施中

社会実験の概要

事業名称 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験

事業手法 公募型プロポーザル方式で選定した協働事業者との協働事業

- 事業目的
- ・ **公共交通の機能補完**として日常生活の移動手段の確保と移動の選択肢を増やす
 - ・ 市内の移動回数の増加により、**地域の活性化**に貢献
 - ・ マイカー移動からの転換により、**脱炭素社会の形成**を推進
 - ・ **交通ルール等の更なる周知啓発**
 - ・ 公民連携により**事業採算性の向上**

実施期間 2022年6月10日から2025年3月31日まで

令和4年6月10日
記者会見の様子



(左) (株)ドコモ・バイクシェア 代表取締役社長 武岡 雅則
 (中) 横浜市長 山中 竹春
 (右) OpenStreet(株) 代表取締役CEO 工藤 智彰

横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

横浜都心部区域（ベイバイク実施エリア）を除く市内を3つの区域（うち7区は重点展開区として先行的に事業展開）に分け、下図の体制で事業を実施



公有地（市営自転車駐車場）に設置したサイクルポートの例



←戸塚駅東口自転車駐車場

金沢八景駅第四自転車駐車場→



横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

- 令和4年9月末の各区域の状況は以下のとおり

	北部区域	南部区域	中部区域
	OpenStreet株式会社		株式会社 ドコモ・バイクシェア
9月の利用者数	約7,700人	約1,100人	約700人
9月の利用回数	約24,100回	約2,400回	約1,400回
ポート数	120箇所 (23箇所)	36箇所 (13箇所)	28箇所 (28箇所)
ラック数	734台 (140台)	268台 (137台)	283台 (283台)

※本社会実験の実施前から設置されていたポート及びラック数、及びそれらを利用した利用者数、回数を含みます。
 ※（ ）は本社会実験開始以降に設置した数です。

横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

- 本社会実験開始以降、新たに設置したサイクルポートの設置状況
- 公有地で44か所422台分、民有地で20か所138台分
(令和4年9月末時点)

	公有地		民有地		小計	
	箇所	台数	箇所	台数	箇所	台数
北部区域	12	70	11	70	23	140
中部区域	19	215	9	28	28	283
南部区域	13	137	0		13	137
合計	44	422	20	138	64	560

- 民有地サイクルポート設置協力者及びシェアサイクルに関連した連携企画提案を、テーマ型共創フロントで募集

募集概要

横浜市が
希望する
提案について

- ・ 民有地サイクルポート候補用地の提案
- ・ シェアサイクルに関連した連携企画
（イベント、タイアップ企画、活用取組、連載記事など）
の提案

横浜市から
提供できる
メリット

- ・ 空きスペースの有効活用
- ・ サイクルポート設置による移動の利便性向上
- ・ 店舗等へのサイクルポート設置による集客効果・知名度向上
- ・ 施設等に設置することによる職員への新たな通勤手段の提供
- ・ エコな移動手段の提供による地域社会・脱炭素社会への貢献
- ・ 連携企画の実施による提案者の知名度向上

等

横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の取組状況

- リーフレットの配布、広報よこはま区版やツイッターなどのSNSを活用した情報発信、地域のイベントでの広報活動など様々な方法で、シェアサイクルの認知度を高め、利用促進につなげていきます。

広報よこはま区版での情報発信（神奈川区版10月号）

サイクルステーションを増設中！
電動シェアサイクルで“らくらくスイスイ”な移動を

横浜市では市内広域シェアサイクル事業の社会実験を行っています。日常のちょっとした移動を快適・便利にする電動シェアサイクルを、あなたも利用してみませんか。
※利用には事前のアカウント登録が必要です。

おすすめポイント

- 電動アシスト自転車(かこ付、3段ギア)だから、坂道も楽々♪
- 「HELLO CYCLING」のサイクルステーションであれば、区内に限らずどこでも乗り降り可能

利用料金
利用開始から30分間：130円(延長15分ごと100円)
※事前に登録したクレジットカード等から引き落とし

サイクルステーション
電動シェアサイクルを乗り降りできる場所です。
設置場所 区内では、新子安駅・白楽駅周辺の自転車駐車場、コンビニエンスストア等の計16か所(8月31日現在)。
※羽沢横浜田大駅、新横浜駅、岸根公園駅等にも設置予定
★近くのサイクルステーションなどの詳細は⇒ [HELLO CYCLING](#) [検索](#)

問合せ 区政推進課 ☎ 411-7028 📠 314-8890

Twitterでの情報発信

← ツイート

横浜市 道路局 交通安全・自転車政策課 @y_kotsuanzen

横浜市では広域シェアサイクル事業の社会実験を実施中です！

「HELLO CYCLING」と「baybike（広域）」がそれぞれのサービスエリア内で利用可能です。 city.yokohama.lg.jp/kurashi/machiz...

#横浜市 #自転車 #横浜広域シェアサイクル

中部区域
dōmoto bike share
株式会社
ドコモ・バイクシェア

北部・南部区域
HELLO CYCLING
OpenStreet株式会社
(連携事業者)
シオホールディングス株式会社
江ノ島電鉄株式会社
株式会社エネファント
株式会社サンオータス

午後7:00 · 2022年11月7日 · Twitter Web App

金沢まつりいきいきフェスタ（10月15日）での出展の様子



サイクルスタンプラリー 開催概要

イベント名称 : ひつじのショーンが案内する横浜横須賀めぐり サイクルスタンプラリー vol.3
開催期間 : 2022年10月6日(木) ~ 12月15日(木)
主催 : 横浜市道路局、横須賀集客促進・魅力発信実行委員会
目的 : 自転車で地域の歴史や魅力を発見する機会を創出
運動不足解消や健康づくりとしての自転車活用

参加特典 :

(1)参加賞

スタンプを3個集めた先着2,000名にひつじのショーンオリジナル反射素材キーホルダーをプレゼント



(2)抽選賞

スタンプ獲得数(5、7、10個)に応じて、抽選でホテル宿泊券や横浜・横須賀関連グッズ等をプレゼント



全スタンプ(10個)集めると、オリジナルサイクルジャージに応募可能

① スタンプポイントの変更

前回開催時のスタンプポイントと5か所全て異なるポイントを選定。
→横浜市の新たな魅力発見につなげる

② 参加賞に必要なスタンプ数の変更

前回：2カ所

今回：3カ所 スタンプポイント訪問数拡大のねらい

③ 横浜市全てのスタンプポイントにサイクルラックを配置

前回：5カ所中3カ所のみ

今回：市内5カ所全てに設置し、より気軽に参加できるように



サイクルラックに自転車を駐輪する参加者

④ 電子スタンプラリーサイトでの各スタンプポイントの紹介ページ等の作成

前回：スタンプラリー参加に必要な情報（各ポイントの二次元コード、ラックの配置場所等）
を入手するためには、電子スタンプラリーサイトから横須賀市HPへアクセスする
必要があった。→操作が煩雑

今回：電子スタンプラリーサイトから直接入手できるようにし、参加者の満足度を向上

2 指標について（8指標）

計画推進の指標について

本計画では計画推進の目安として、指標を設定しています。
今回、次期中期4か年計画の策定にあわせて、指標を見直します。

自転車活用推進計画の指標					実現に関連するテーマ			
指標名	2025年度 (目標値)(案)	2021年度		計画策定時点	まもる	はしる	とめる	いかす
		実績	目標値					
自転車関係 交通事故件数	1,600件以下	1,741件	1,800件以下	2,093件 (2017年実績)	○	○		
自転車通行ルールの 認知度	90%	知っている 88.8%	75.0%	2019年度に実施予定の 市民向けアンケート調査 結果等により指標を設定	○			
自転車保険の 加入率	85%	68.4%	85.0%	2019年度に実施予定の 市民向けアンケート調査 結果により指標を設定	○			
自転車通行空間の 整備延長	103km (累計)	86km (累計)	43km (累計)	33km (累計・2017年度末実績)		○		

自転車活用推進計画の指標					実現に関連するテーマ			
指標名	2025年度 (目標値)(案)	2021年度		計画策定時点	まもる	はしる	とめる	いかす
		実績	目標値					
放置自転車台数	4,000台未満	4,251台	6,600台未満	8,297台 (2017年実績)			○	
附置義務条例による 集客施設の駐輪場 収容台数の増加	7,200台 (累計)	3,760台 (累計)	7,200台 (累計)	—			○	
自転車関連イベント (「いかす」施策)の 開催件数 (市が関係するもの)	10件 (2022年度～ 2025年度累計)	8件 (2019年度～ 2021年度累計)	10件 (2019年度～ 2021年度累計)	—				○
自転車利用環境の 満足度	2021年度より向上	17.2% (まもる)	2019年度より向上	2019年度に実施の 市民向けアンケート調査 結果等により指標を設定	○	○	○	○
		19.0% (はしる)						
		24.8% (とめる)						
		27.6% (いかす)						
		22.2% (全体)						

3

横浜市広域シェアサイクル
事業社会実験に係る
事業評価部会の設置について

横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の実施に関する協定書第17条第4項に基づく事業評価の実施に際して、専門的な知見等をいただく場として部会を設置し、次の内容について具体的にご意見いただく。

ご意見をいただく点（案）

- ・ 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の事業評価（年度ごとに実施）
- ・ 協働事業者から提供されるシェアサイクル関連データの活用方法
- ・ 本社会実験の事業成果の見える化検討
- ・ シェアサイクルの普及促進に向けた方策 など

名称：横浜市広域シェアサイクル事業社会実験に係る事業評価部会

設置期間：本社会実験の事業評価が終了するまで
(～2025年5月31日まで(予定))

部会委員 (案) (敬称略 五十音順)

氏名	職名
岡村 敏之 (部会長)	東洋大学国際学部国際地域学科 教授
小嶋 文	埼玉大学大学院理工学研究科 准教授
後藤 智香子	東京大学先端科学技術研究センター 特任講師
吉田 育代	株式会社日本経済研究所公共デザイン本部 上席研究主幹

今後の流れ(案)

